

2015年7月創刊、日吉・綱島・高田周辺エリアの「地域インターネット新聞」**ダイジェスト版**です

ネットで注目の話題

<https://hiyosi.net>

## 「地域のつながり」深まる、マスク寄贈や飲食店など支援



日吉商店街は店舗で集めたマスクを港北区役所へ寄贈、中央は栗田のみ区長

「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大、またその影響により、新たな「地域まちづくり」の動きが生まれています。

長く営業自粛や休業、来客の減少を強いられた店舗を支援するため、港北区は、区内商店街に加盟し、**テイクアウト(持ち帰り)や出前、配達**が可能な店舗を紹介する**特設ページ**を、区のサイト内に設置。

### 地域のニュース

#### ● まちの代表「港北区連合町内会」が新体制に

港北区内の13エリアごとに組織されている「港北区連合町内会」会長に、新たに篠原地区の川島武俊会長が就任。樽町の小泉亨会長、師岡の金子清行会長、新吉田の末永佑己会長ら新会長が初顔合わせを6月22日に港北区役所で行い、ポストコロナ時代の新たな「地域まちづくり」への決意を共有していました。

#### ● 綱島で「花と緑のまちづくり」がスタート

綱島エリアの地域団体「フローラルつなしま」(綱島西地区緑のまちづくり推進団体)は、横浜市環境創造局による「横浜みどりアップ計画」の助成を受け、今年4月から3年後(2023年3月末)まで、3年かけての地域緑化を行うことになりました。



事務局の綱島地区センター

#### ● 日吉の再開発エリアが始動、箕輪小も開校

箕輪町2丁目の大型再開発「プラウドシティ日吉」(野村不動産)が4月にオープン。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けながらも、日大高校寄りの「A工区」マンションの居住がスタート。箕輪小学校も短時間ながら入学式が行われ、商業・医療施設も6月までの間に順次オープンしています。

横浜市経済局も、「テイクアウト&デリバリー横浜」のホームページを特設、登録があった**飲食店のデータを公開**するなどの支援を行っています。



新吉田では出張テイクアウト企画

「お酒のアトリエ吉祥」(新吉田東5)の店頭では約2カ月間、日吉サンロード商店会など5つの通り会による**日吉駅前・スルガ銀行(日吉2)脇**では4日間、地元飲食店を支援するための出張販売が行われました。

また感染防止対策として、**横浜ひかりライオンズクラブ**が区役所や港北消防署、港北警察署にマスク各2千枚を寄付したほか、**有限会社鈴木機械彫刻所(樽町2)**が、自社製の**アクリルパーテーションボード**を区に寄贈しています。

このエピソードを知った**河野建設株式会社(日吉本町2)**が、鈴木機械彫刻所にフェイスシールドの作成を依頼、別途手配したマスクとともに区へ寄贈したという出来事も。

日吉商店街協同組合も、日吉駅前の5つの通り会と設置した「**寄付用マスク回収ボックス**」を通じて集めた未開封・未使用のマスクを区に寄贈するなど、**地域での新しいつながりや支援の輪**が広がっています。

#### 高田と新吉田つなぐ「高吉橋」が完成

都市計画道路「宮内新横浜線」の一部で、早瀬川に架けられた「高吉(たかよし)橋」が完成、3月30日から歩行者に限り通行が可能となりました。



高田から新吉田側を見た高吉橋

高吉橋はそれぞれの結節点にある「北橋」「南橋」とあわせ長さ約200メートル。高田西1丁目・高田東4丁目と新吉田東3丁目を結んでいます。車道の全通は今年度(2021年3月)中を目標としており、開通後は高田から新吉田を経て、新横浜までつながります。



橋名板の文字は高田中学校(写真)と新田中学校の生徒が記した

【発行者より】「横浜日吉新聞」は7月で創刊5周年。インターネットの掲載記事をまとめた紙のダイジェスト版の発行も10回目となりました。これからも「地域をつなぐ」情報インフラとしての役割を強化してまいります。

【発行元】一般社団法人 地域インターネット新聞社  
横浜市西区北幸1-11-1 水信ビル7階

【裏面もご覧ください】

## ＜日吉で創業＞25周年迎える「宮崎通信」、新羽に新本社オープン

港北区の老舗IT企業が新本社ビルをオープンしました。地下鉄ブルーライン新羽駅から徒歩約4分、宮内新横浜線にも近い新羽町に本社を移転した「株式会社宮崎通信」は、1995年12月に日吉で設立されて以来、電気・電話・LAN工事やシステム開発、パソコンやIT関連機器の修理とメンテナンスなど、IT分野での強みを発揮した事業を展開。パソコンのトラブルに対応する「パソコン救急センター」も同ビル1階で新規業務をスタートしています。

### ● 創業者の濱田順二社長は宮崎県出身

インターネットが日本で商用化されて間もない頃からの「IT企業」として1995年に日吉(下田町)で創業された株式会社宮崎通信は、パソコンやスマートフォンのトラブル解決から、通信インフラの工事や保守、ソフトウェアの開発まで“ITまわり”を一括して担うことで業績を伸ばし、今年(2020年)5月、本社を日吉7丁目から新羽に移転。これまでよりさらに充実した本社機能や人員の体制強化で、さらなる会社の発展を目指すことになりました。



創業者の濱田順二社長は、「宮崎さん」と呼ばれ、地域の人々から親しまれてきた

創業者の濱田(はまだ)順二社長は、宮崎県の出身。1980年代の「パソコン通信」時代から“通信”の威力や可能性を感じていたという濱田社長にとって、この分野で起業することは“必然”だったと、創業した当時を振り返ります。

2005年には自治体からの要請もあり、故郷・宮崎県にも進出。宮崎市内もあわせた「2拠点体制」で事業を展開、昨年(2019年)末での決算では、過去最高の売上高を達成するなど、業績は好調に推移しています。

### ● 「樹木」のマークに成長への願い込めて

濱田社長が考案した「樹木」を描いた会社のマークには、社員や事業が、木々の葉、そして枝、さらには幹として「成長」していくという願いを込めているといい、人材も広く募集しているとのこと。



「宮崎通信」のシンボル・樹木マーク



新羽駅から徒歩4分、宮内新横浜線に近い「株式会社宮崎通信」本社  
(公式ホームページ: <https://www.mtnet.co.jp/>)

### ● パソコン救急センターでPCトラブルに対応

「パソコンに詳しい人」として知られることになった濱田社長は、2001年にパソコントラブルに定額料金で駆け付けるサービス「パソコン救急センター」を日吉本町でオープン。2012年に日吉7丁目に移転後、一時期は全国系チェーンに加入したものの、昨年(2019年)1月から、新たに自社での運営体制に移行。“地域密着型”のパソコン救急時における修理やサポート、メンテナンスといったさまざまな独自のサービスを展開してきました。



パソコン持ち込み時にはまずはお電話を

99センター君



同センターのリーダー・井上健司さんは、「パソコンのメーカー・種類を越えて、ワンストップで対応可能です」と、法人・個人からの需要にも広く対応できるというパソコン救急センターの“強み”とアピール。

井上さんは、「パソコンの動作が遅い、操作や設定方法が分からない、突然起動しなくなった、ネットにつながらない、ウイルスに感染したかもしれない、といったどんなお困り事にも対応します」と、同店では、老舗IT企業としての歴史から生まれる各種サービスの利用を呼び掛けています。

● 株式会社宮崎通信「パソコン救急センター」  
新羽町1144-1(地下鉄ブルーライン新羽駅より徒歩約4分)  
☎ 045-540-8153 営業時間: 9時~18時(定休日: 土・日・祝)  
公式ホームページからも問合せ受付中: <https://www.mtnet.co.jp/>



横浜日吉新聞のツイッター(@hiyosi\_net)は8,100人のフォロワー、フェイスブックは「いいね!」が2,200を超えました

